

# 第31回 タイガース映画ヒロインの 確かな実力と引き際

ザ・タイガース主演の東宝映画『世界はボクらを待っている』は、グループサウンズ(GS)全盛期、昭和43年4月に封切られました。

当時、『君だけに愛を』が大ヒット中で人気絶頂だったジュリーの相手役に誰が抜擢されるのか、巷の注目を集めていましたが、発表された名前は世間的にはほとんど無名の「久美かおり」でした。

久美は公募で選ばれたわけではなく、当時すでに渡辺プロに在籍するジャズ志向の強い歌手の卵で、ナベプロ所属前にはジャズシンガーのマーサ三宅(大橋巨泉の前妻)に師事していたそうです。

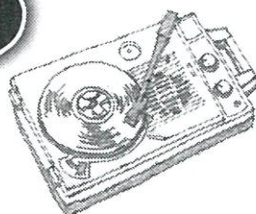
ヒロイン役発表時、久美は19歳になっただけでしたが、その2か月ほど前の昭和42年12月公開の東宝映画『日本一の男の中の男』(主演・植木等)で、銀幕に登場しています。

まだスクールメイッツ在籍中だった平山三紀、山室英美子(のちのトワ・エ・モア)らとともに「メイツガールズ」として『若いってすばらし

い』を楽しそうに歌っています。平山が『ビューティフル・ヨコハマ』でデビューするのはそれから3年後、

## 名曲カルテ

# 昭和歌謡と いつまでも



堀井六郎  
絵 松本浦



トワ・エ・モアが『或る日突然』でデビューするのはおよそ1年半後です。

『世界はボクらを』の映画では宇宙人のお姫様役を演じた久美ですが、ジュリーと『星のプリンス』『サイド・バウンド』のB面)をデュエットするシーンは、芦ノ湖畔での映像とともに、私のお気に入りです。

レコード歌手としての久美のデビューは映画公開の2か月後で、GSブームの牽引者の一人、なかにし礼の作詞と、ナベプロ所属の切り札・東海林修の作編曲という最強の布陣で作られた『くちづけが怖い』でした。

ナベプロの先輩・伊東ゆかり、あるいは小川知子あたりが歌っても十

分ヒットしそうな要素を詰め込んだ作品で、それなりにヒットし、レコード大賞の新人賞を獲得しています。

実は、ヒロイン役発表の直前、久美は『100発100中 黄金の眼』(主演・宝田明)という和製007映画の主題歌『ゴールデンアイ』(英語詞・谷川俊太郎、作編曲・佐藤勝)を吹き込んでいます。ただし、『世界はボクらを』のひと月前に封切られたこの映画のタイトルロールに、久美の名前はありませんでした。

後年発売された久美のCDには未発売だった『ゴールデンアイ』が収録されていますが、ジャズ演奏をバックに、スキヤットを交えて歌うハスキーな低音が実に魅力的で、『くちづけが怖い』の歌手とは別人のような雰囲気を感じています。

タイガースが残した3本の映画すべてでヒロイン役を素敵に演じた久美は、デビューの翌々年、芸能界から身を引きました。

無名時代にはレナウンのCMソング『ワンサカ娘』を歌い、引退後はニッポン放送『カメカメポップス』で裏方のADをきっちり務めた久美ですが、お姫様より等身大のイエイエガールや洋楽の世界に惹かれていたのかもしれない。